



東京日々新聞

五百九十
二號



無慙あるれ 秋月が娘深雪ハ云と
戸毎にいて唄ふなる 浄瑠璃節ハ
恋ハあるよ泣つた目ハ鳥
彼情郎ハ熊次郎此夫ハ
熊次郎 長の眼病ヲ打取く遂マ
警者トある不自由重荷みそ
如鬼等ト養ひ養ハ
困窮ミ袖ハ乾クぬ芝
浦の浪にゆらゆら
色々々ね 濱松町の四丁目
ある五番の地所乃
借店住 晝ハ走り
魚と賣リ
宵ハ三味
線の
細き稼ハ藝ハ身ト
たさし程の薄命
風雨雪夜ハ厭ハざる赤心天
感通して 明治七年一月
初旬 褒賞金ト賜
朝日日記の節操ハ数回
まさる貞婦ト云

轉々堂純記

熊次郎妻ハ

娘ハ

野具足屋 渡辺勝栄

一萬齋
女方養魚

